



丁卯之卯歳旦

淀三妙社中

けんぢりも梅もゆつとこれ乃春 兔杖  
けくのもつとやと嫁といこれたり 五水  
門李や兎いくひひと出ッ入ッ 幾由  
初月や幸里小野のねむとや 魚里  
院居とよせ吉と難考といつ冷と 泉志  
半初人まよもふ小ねりくひと 雪洞

客のものを移りてふ遠言のりて

梅借—初日おとこれ朝守—き 富葉

早書

何猫少を—とこれたり大二十日 兔杖  
作るこも梅つとやと成之れたり 五水  
押つたて正月布子あま日々を 幾由  
走舟の原もまよと此師をうか 魚里  
ふふとく煤や月雪花の空 泉志

年中除夜

やれとくゆつとと—年恒也 雪洞  
古も依のまよとせりてと梅よとふ 富葉

春の吟

あまてもも雨もとととと小の菫 兔杖  
降りし梅—雪のまよれ霰ふ 五水  
もれもあちうれ梅のまよ盤 幾由  
春の水まよく流れくまのまよ 魚里  
叮々の音も梅子や猿まよ— 泉志  
畢丸へもれゆく春のゆりまよ 雪洞  
まよとやまよとまよと月影や雨あし 富葉

文通

神小まよと二五れ多いや年—と 北越賜字町 富葉

流はまよく清水もまよれまよ入 泉志

